

こども通信

6月は当院にとって記念の月。11年前の平成2年(一九九〇年)に開業したのが6月でした。毎年、それまでの「足取り」を振り返りながら、でも「明日があるさ」の歌のように次の一年、どんなことを目標に仕事をしていこうかと思いつめぐらすのが習わしになっています。

今年「病児保育」を始めるという事で、その意味合いがさらに深くなりました。子どもたちが病気になる時、もし家庭保育が難しいのならお役にたてると思います。

すでに専任保母



2名とともに、準備を急いでいます。実際に始めてみないと分からないことも多いでしょうが、皆さんの「意見・ご要望をお聞きしながら、使い勝手のよいものにしていきます。塚田こども医院の新しいサービスを、暖かく見守ってください。

読売新聞への投書(「不安なお母さん励ますのも大切」)が掲載されたことは先月号でご紹介しましたが、このたび「月間気流賞」をいただきました。とても光栄なことです。

今の医療や福祉の中で「思いやり

塚田こども医院
 上越市栄町 2-2-25
 TEL(0255)44-7777
 FAX(0255)44-8456
 時間外090-3333-4388
 E-mail tsukada@kodomoiin.com
 ホームページ www.kodomoiin.com

事故予防のヒント
 夏場、自動車の中は強烈な暑さになります。熱中症にさせないためにも、車内に子どもを一人で置いていかないで下さい。(犯罪です)

ことが受賞のバックグラウンドにあると考え、手放して喜んでくれるわけにはいきません。そしてそこに書いたことを日々の仕事の中でしっかりと実行しているか、自分自身に問いかけていきたいと思えます。

今月のポリオ予防接種(任意)は16日(土)です。この「通信」をご家庭でご覧になりたい方には、FAXでお送りします(無料)。ご希望の方は医院へ。

をもって接する」という当り前のことがどうも欠けています。その

感染症情報

先月(5月)は、また風邪などが多くなったようです。やはり子どもたちは集団生活をしていると、どうしても感染症をもらってしまいます。なかでも4月に初めて入園した3歳前後の子どもたちの外来受診が多かったように思います。

おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)がとても多くなりました。県内では上越地方での流行が突出しています。耳下腺の腫れが1週間ほど続き、その間はお休みしなければいけません。時には髄膜炎などの合併症もありますし、大人がかかると重い症状になりやすいです。ワクチンによる予防接種をお勧めしています。

このほか、水ぼうそう(水痘)はやや下火、嘔吐下痢症も少なくなりました。溶連菌感染症は少ないのですが、まだ注意が必要。

先月下旬からあらたにヘルパンギーナの流行が徐々に始まったようです。これは子どもたちの間で夏場に流行しやすいウイルスによる感染症です。高熱とどの痛みが特徴ですが、数日で自然とよくなっていきます。これを見かけるようになると、もうすぐ夏なんだと実感します。

当院から[感染症情報]を毎週お伝えしています。(0255)44-7722(無料)
 FM-J(エフエム上越76.1MHz)=金曜13:30~ 上越有線放送=月曜18時~
 i-Mode携帯・パソコンに毎週送信しています。ご希望の方はご連絡を。

今月の予定

上越市の予防接種(麻疹、風疹、三混、日脳)
 火、金 午後1:30~2:30
 月、火、木、金 午後4:30~5:00
 乳幼児健診、任意の予防接種
 毎週木曜 午後1:30~2:30
 院長出務
 聖母保育園健診 6日
 有田保育園健診 13日
 上越市乳幼児健診 20、27日
 有線放送「健康ライフ」16日朝6時-
 「病児保育/夏にはやる病気」
 能生町保育士会講義 16日14時-
 「子どもの病気と健康」
 FM-J「Dr.ジローのこども健康相談」
 月曜午前9:15頃~(76.1MHz)
 第1週(4日)=子育てアドバイス、第2週(11日)=子どもの病気、第3週(18日)=予防接種、第4週(25日)=事故予防



<利用あんない>

- ・場所：当院2階
- ・日時：月～金
午前8：30～午後5：30
(土、日、祝日、医院休診日はお休み)
- ・ミルク、昼食等のご持参下さい
- ・料金：1日3,500円
- ・会員制です(月200円)
- ・できれば事前に登録して下さい

わたぼうし病児保育室 いよいよスタートです

今月12日(火)より、病児保育室を開設します。お子さんが病気などのときに、家庭保育をお手伝いできるのではないかと思えます。

対象となる病気は、とくに制限をしないつもりです(はしかは、強い感染力と本人の症状が強いため、対象外とします)。もちろん、とても具合の悪いときは外来受診(ときには入院)が

必要ですし、親御さんができるだけお休みをとり、お子さんと一緒にいてあげてほしいと思えます。

しかし、職場やご家庭の事情などで、なかなか思うとおりにならないことはありますね。そんなときに、子どもに無理をさせないで、「病児保育室」でお預かりしようという趣旨です。

私の子どもはもう大きくなりましたが、小さいときの子育ての中での「大変な思い」を今でも忘れることができません。診察室で思案にくれている親御さんの姿を見ると、自分の昔にだぶってきま

す。

「子どもが病気の時こそ親は休みをとるべきだ」というのはもっともです。そのための社会整備をぜひ急いで下さい。社会を変える運動をして下さい。でも、そうなるまで、今困っている子どもたちと親御さんたちをそのままにしておいていいわけではありません。



優しい感触が好きです。そして、タンポポの種を遠くまで運び、広げてくれる役割も果たしています。

当院の病児保育室が、具合の悪い子どもたちや、困っているご家庭を暖かく包んであげたいという思いと、これからも多くの施設が誕生するといいなという願いをこめて、「わたぼうし」と名付けました。

そして、いわゆる専業主婦であっても、病気で具合の悪いお子さんを家庭保育(家庭看護)するのは、とても大変です。そんなときは、当院のスタッフといっしょにお子さんの面倒をみてあげたいですね。「登園できない子」に限っているわけではないのは、そんな思いもあるからです。

実は以前にも同じ名前を使ったことがあります。私が長男の子育て当時(もう20年ほど前)、産休明けから預けられる保育園がなかったため、数家族がいっしょになって作った共同保育園が「わたぼうし」。2年ほどで大学がそれを引き継いでくれたので、短い間わりでしたが、でも思い出深く、また貴重な経験をたくさんしました。私にとって、その後の父としての、あるいは小児科医としての「原点」となっています。

「わたぼうし」はそのふわっとした

「わたぼうし」がまた戻ってくるのでとてもうれしい気持ちですし、大切に育てていきたいと思っています。